

地域・保護者・学校関係者への教育長メッセージ ②7  
『多様性を大切にすることを』

コロナ禍の中、三度目の梅雨がめぐってきました。今年も紫陽花をはじめ、紫色の花の咲き誇る季節となりました。紫陽花には蝸牛、雨傘。今年の梅雨は長雨となるのでしょうか。それとも集中豪雨のような激しい雨となるのでしょうか。大きな災害とならないことを祈るばかりです。

この六月に海部地区の小中学校の女性管理職の皆さんにお話する機会を頂きました。次のようなお話を計画しています。

何よりも人との出逢いを大切にし、出逢いに学ぶ生き方をしてください。人生のターニングポイントには必ず人との出逢いがあります。先輩・同僚・後輩・そして教え子、地域の方や保護者の皆さん。どうか「自分以外皆師」の姿勢で話を聴いてほしいと思います。

次に五つの事をお願いするつもりです。①「報告・連絡・相談・確認（ほうんそうかく）」を実践すること ②まわりの人への関心を絶えず持ち続けること ③スピード感のある対応をすること（誠意はスピードで）④新しい事を始める勇氣を持つこと ⑤思いつきも大切、継続的な話し合いの場も大切。人の意見を聴く場を大切にすること を学校運営の要諦にしてほしいとお話します。

また管理職の役割は、地域の窓口であると思います。三年先、五年先を見通し、地域に開かれた、地域の方に学校に来ていただく、子どもたちや教職員が地域に出かける、地域の方と一緒にイベントを行う体制を創り上げてほしいと思います。その姿こそがコミュニティースクールです。

また自分の好きな事、得意な事を生かし、住んでいる地域の人として行事やイベントに参加することをお願いしたいと思います。

これからの教育はまちづくり・人づくりとして行われなければなりません。魅力ある津島の教育を進めることで、「津島の学校に通いたい。津島のまちに住んでみたい」という考えになってほしいと思います。そのためには誰一人取り残さない教育、個別・最適化の教育を進めねばなりません。市教育支援センターを核とした、不登校児童生徒への対応、外国籍児童生徒への日本語初期指導（プレルーム）などを進めていきます。アウトリーチ型、積極的に家庭とかかわりをもった指導体制を進めていきたいとお話をします。

性によって区別されない教育。ジェンダー・フリーの教育、多様性を大切にする教育をめざしてほしいをお願いするつもりです。

紫の花に囲まれ立夏かな

令和4年6月6日  
津島市教育委員会  
教育長 浅井厚視